



保護者会 実施のご報告

先日、4月24日（金）午後に、令和8年度当初の保護者会を行いました。

校長よりご挨拶をさせていただきました際の内容を掲載いたします。

本校の教育活動をご理解いただくため、ご活用いただけますと幸いです。

今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

～ 令和8年4月24日 保護者会 校長 ご挨拶より ～

本日はお忙しい中をご来校いただき、誠にありがとうございます。

令和8年度始業にあたり、ご挨拶を申し上げます。

今年度は、4月6日の始業式、4月7日の入学式にて生徒を迎え、ただいま計414人が学校生活を送っております。先週お送りしました学校だよりでは412人とお伝えしましたが、一昨日、2学年と3学年に転入生を迎えましたので、現在は2名増えて414人の在籍生徒数となっております。

この生徒たちを支える教職員は、ただいまご紹介しました前45人。ここに10人以上の調理スタッフや、校外では教育委員会や子ども家庭総合センター、青少年育成を目的とした地域や南千住警察の皆様などなど、多くの関係諸機関の皆様とスクラムを組んで、お預かりしたお子様の成長を支えてまいります。

多感な思春期の頃合い。414人の生徒が笑えば414の笑顔が輝きます。414人が悩めば414の悩みが、そしていつも414の夢や目標があふれている三中です。

お子さんは学校では学校の顔を、ご家庭ではご家庭の顔を見せていることと思います。

生徒が多方面で見せる表情を、周囲で支える我々がいろいろな面で捉えて、共有して、温かく支援することこそが、生徒の幸せな環境を実現することであると考えております。

お子さんがあちらこちらで見せる喜怒哀楽や、なかなか見せない心の内側を表すサインを、保護者の皆様と協力してしっかりと捉え、保護者の皆様と一緒に考えて、お子さんの成長に繋げてまいりたいと存じます。

是非、お子さんを育てる応援団として、ご家庭と学校の連携を強く深く固めていけますように、どうぞよろしくお願いいたします。

先日、学校のホームページに、私が作成いたしました学校経営方針を掲載しました。

昨年度の形式から変えて、一枚にまとめる工夫をしてみました。

まだまだ硬い表現が並んでいて、もっと分かりやすくする改善の余地があると思っておりますが、先程申しました連携の一環として、是非一度見ていただけますとありがたいと思います。

荒川区立第三中学校の校訓は、ご存じ【人間としてかがやく】です。

教育目標 【人間尊重の精神に基づき、校訓「人間としてかがやく」をめざし、知性と感性に富み、健やかでたくましく生きる生徒を育成する】からこの校訓の解釈を捉えていただきたいと思います。

その具体的な方針は、【社会を構成する一員としての自覚を育む】こと。

この、【社会を構成する一員としての自覚を育む】という点で、生徒を周囲から支える私たち大人は連携を図っていきたいと思っております。 どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、【社会を構成する一員としての自覚を育む】というのは、どのような力を育むことを指すのか。

学校経営方針では、大きく4つの力、そしてさらにもう少し具体的に6つの力を掲げました。

本年度の本校の教育課程の全ては、このいずれかの力を育むために行っていきます。

例えば、宿泊行事や学校行事の実施要項に触れる機会がありましたら、そのねらいの1つ目に、どの力を育むことをねらいとしているのか、に関連する記載をしています。詳細は、お時間ができたときに、学校ホームページの中から令和8年度の学校経営方針をご覧ください。

RS



R8三中学校経営方針です

さて、この後各分掌担当より、今年度の教育課程などにつきましてご説明いたしますが、昨年度から変更改善した中から、私より特に次の2つをお伝えします。

まず1つ目は、部活動の地域連携に関する内容です。

来月5月9日土曜日の午後には部活動保護者説明会を予定しておりまして、そちらで改めてお伝えする内容です。

荒川区教育委員会では、昨年度から部活動の地域連携を模索して、進めてまいりました。荒川区立第三中学校はそのパイロット校として、区内で唯一、昨年度に一部の地域連携を実施しました。バスケットボール部、バレーボール部、卓球部の3つの部活動です。こちらに関しましては、本日のこの説明をもって、今後スクリレにて区の方針の案内をお届けします。

また、該当部活動の保護者の皆様には、これまでの一年間の様子をお聞かせいただきたく、後日アンケートを実施させていただきますので、どうぞご協力ください。

この地域連携は、教育委員会の学務課と、「すきやき」という名のアスリートを取りまとめている委託団体が進めております。例えば、土日の部活動は、三中の生徒が、区教委開催の部活動にて活動していることになります。令和7年度の一年間は、課題を洗い出し、修正・改善をしながら運営をしてきました。

今年度は、本校を含め、区内4校にて実施を広げるとともに、本校ではさらにバドミントン部とソフトテニス部にて指導者の派遣がなされます。

区の教育委員会の指導のもと、本校では、教員の異動によって部の存続を憂慮することなく、また、専門性の高い指導者による継続した指導を受けることができるなどのメリットをさらに伸ばしていきたいと考えております。一方、教員は部活動の指導から離れ、その分の力を教科や学級や学年の生徒の育成にあてることが期待されております。

このようにお寄せいただく期待に応えるべく、運営を進めてまいります。どうぞご理解のほどをよろしくお願いいたします。

2つ目は、3月の保護者会でもお伝えした 1学期中間考査に係わる内容です。

この一年間、本校では評価と指導の一体化の改善に取り組んでまいりました。

50分間の授業における「指導のねらい」、これを明確にして、生徒と共有することも大切にして、より明確に扱ってきました。

また、図書館の情報活用と合わせ、一人一人が手にしているタブレットパソコンを用いるなどして相互の意見交流の機会に重点をおき、力を合わせて新しい学びに至るプロセスを大切にしてきました。

さらに、個性や必要な支援に応じて、誰もが学びを深められるユニバーサルデザインの視点で指導方法の改善に取り組んできました。

これらの取り組みは地道なものではありますが、生徒がより一層授業の主体者として日々

を送ることができるように、一人一人の教職員が、あるいは教科や学年の組織が、いつも向上を目指して研究と修養に励んでおります。

そして、新たに次年度は、評価の在り方を見直す一環として、これまで実施してまいりました一学期の中間考査を廃止し、年間4回の定期考査へと改めることといたしました。

その趣旨とメリットについてご説明申し上げます。

まず第一に、生徒の学習の質の向上を目的としております。

従来の一学期は、入学・進級直後ということもあり、学習内容の定着が十分でないまま中間考査を迎えるケースが見られました。

考査を精選することで、基礎基本の定着に時間を充て、理解を深めたうえで評価を行うことが可能となります。

第二に、日常的な学習活動の充実を図ります。

考査回数を見直すことで、テスト前だけに集中する学習ではなく、授業内での取り組みや課題の発見・解決、発表など、多様な学びを重視した日常の評価へとつなげてまいります。これにより、生徒一人ひとりの学びの過程をより丁寧に見取ることができます。

第三に、生徒の負担の適正化です。

短期間に複数回の考査が集中する状況を見直し、学習と学校生活のバランスを整えることで、心身ともに安定した状態で学習に取り組める環境を整えます。



このように、本校では、単に考査の回数を変更するだけでなく、授業改善や評価方法の工夫を通して、生徒の主体的な学びを一層支えてまいります。

そして、掲げた教育目標と、校訓「人間としてかがやく」をめざし、生徒一人ひとりの可能性を最大限に引き出せるよう、教職員一同力を尽くしてまいります。

今年度も保護者の皆様と連携しながら、より良い教育環境の実現に努めてまいります。

ご理解とご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。